

加須市議会新政会行政視察報告書(令和 7 年度)

—まちづくり・子育て・防災・教育の先進事例から学んだこと—

1.はじめに

私たち「新政会」は、令和 7 年 7 月 16日から18日にかけて、宮崎県都城市・熊本県人吉市・鹿児島県姶良市・鹿児島県さつま町を訪れ、それぞれの地域で行われている先進的な取り組みを学びました。視察テーマは 4 つです。

1. 都市の活性化
2. 防災と復興
3. 子育て支援
4. 学校の再編と教育環境づくり

それぞれの訪問先で得た知識やヒントを整理し、加須市のまちづくりや施策にどう活かせるかをまとめました。

2.宮崎県都城市「Mallmall(まるまる)」

日時:7 月 16日(水)14:00～15:30

目的:公共施設と民間店舗を一体化した複合施設で、市街地を活性化する方法を学ぶ

施設の特徴

- 図書館、子育て支援、保健センター、広場、商業店舗など 8 つの機能が一つの建物に集結
- 図書館は世代別にゾーン分け(乳幼児コーナー、ティーンズコーナー、自習室など)し、誰もが使いやすい空間に
- 子育て支援施設は保健センターと連携し、健診・相談・遊びが一体化したサービスを提供
- 広場では年間を通じて市民参加型イベントを実施し、地域のつながりを育む
- 商業テナントも入居し、買い物や飲食を通じて施設全体の賑わいを創出
- 建物内はバリアフリー設計で、ベビーカーや車椅子でも快適に移動可能

- ・ 駐車場やアクセス道路も整備され、来訪者の利便性を確保

加須市への活かし方

- ・ 駅周辺などに複合施設をつくり、公共サービスと商業を一体化
 - ・ 滞在しやすい空間づくり(カフェや無料 Wi-Fi など)を重視
 - ・ 広場や共有スペースを使って市民が主役のイベントを育てる
-

3.熊本県人吉市防災・復興まちづくり

日時:7月17日(木)10:00~11:30

目的:災害からの復興と、防災に強いまちづくりの方法を学ぶ

取組の特徴

- ・ 被災地を10区域に分けて復興計画を立案し、地域ごとの課題に対応
- ・ 災害情報はLINE、FMラジオ、SNS、防災スピーカーなど複数手段で発信し、情報の届きにくい層にも配慮
- ・ 避難所に非常電源、備蓄、プライバシーに配慮したスペースを整備し、安心して避難できる環境を構築
- ・ 外国人・高齢者・障がい者も参加できる避難訓練を定期実施し、誰もが安全に避難できる体制づくり
- ・ 社会実験で市民と一緒に防災環境や公共空間の改善を検証し、実効性のある施策を導入
- ・ 災害履歴や教訓を展示する資料館を整備し、防災意識の向上を図る

加須市への活かし方

- ・ ハザードマップの見やすさ向上と多言語対応
- ・ 災害情報の伝達方法を多重化し、確実に届ける仕組み
- ・ 市民参加型の避難訓練や地域防災リーダー育成の強化

3.鹿児島県始良市「ちるとん(子ども館)」

日時:7月17日(木)14:00~15:30

目的:地域全体で支える子育て支援のあり方を学ぶ

施設の特徴

- 生後3か月から就学前まで預けられる一時預かり室を完備し、保護者の急な用事にも対応
- 年齢別に遊具を整備した安全なキッズスペースで、子どもが安心して遊べる環境を提供
- 保健・医療・教育機関と連携した健診や相談サポートにより、子育ての不安を軽減
- 高齢者や学生も参加する多世代交流イベントを定期開催し、地域の絆を深める
- 利用者アンケートでサービスを改善する仕組みがあり、利用者の声を反映した運営を実現
- 館内は明るく開放的な設計で、親子がリラックスできる空間づくりに配慮
- 駐車場や授乳室、オムツ替えスペースなども整備され、利便性が高い

加須市への活かし方

- 子育て支援機能を集約した施設を検討(相談・遊び・預かりを一体化)
- 地域の人材を活用した多世代交流プログラムの導入
- データを活かした子育て施策の改善体制づくり

5.鹿児島県さつま町学校再編・教育環境整備

日時:7月18日(金)10:00~11:30

目的:少子化に対応した学校再編と教育環境改善、閉校施設の活用事例を学ぶ

取組の特徴

- 10 年以上かけて段階的に学校を統合(小学校 3 校・中学校 1 校体制へ)し、教育資源を集中
- 地区ごとに説明会を重ね、理解を得ながら進めたことで、地域の納得感を醸成
- 統合後は ICT 機器や特別教室、広い運動場を整備し、学びの質を向上
- スクールバスや通学路安全対策を同時に実施し、通学環境の不安を解消
- 閉校施設は福祉や交流拠点、宿泊体験施設などに再利用し、地域資源として活用
- 教職員の配置や教育内容の見直しも行い、統合後の教育体制を強化

加須市への活かし方

- 再編検討は早期に説明会を開き、地域との対話を重視
- 統合と同時に通学安全・交通対策を整える
- 閉校予定施設は地域の提案を取り入れて活用方法を決定

6.まとめ

4 つの自治体の共通点は、「市民と一緒に考えてつくる」という姿勢でした。加須市においても、施設づくりや制度設計は市民・行政・民間が協力し、課題を新たな価値に変えるプロセスを重視する必要があります。今回得た知見は、今後の議会活動や政策提案に反映し、市民が安心して暮らし、未来に希望が持てるまちづくりにつなげます。

以上

個別コメント

氏名:高橋一夫

今回の視察において、特に人吉市の災害対応と災害復興についての学びが、強く残りました。

甚大な被害にもかかわらず、被災から5年で、治水対策もインフラ復旧についても、災害に強いものに生まれ変わりつつありました。

令和2年の市民避難の際も、市長自らマイクを取り、防災無線で避難を叫び、緊迫した状況であったことがわかりました。市長の決断力、行動力の素晴らしさが、見て取れる視察となりました。

また、この避難が、あったからこそ、市民の防災に対する意識が高くなったということと思います。

利根川を抱える加須市にとっても、避難計画、情報伝達、防災備蓄、ハザードマップ、あらゆる防災に対する備えを考えさせられました。

今後、行政と共に、市民の生命と財産を守るため、具体的な防災、減災の対策に取り組んでいきたいと思っています。

氏名:山下雄希

都城市では、地域と行政・企業が一体となった子育て支援の取り組みから、安心して子育てできる環境づくりの重要性を学びました。

人吉市では、豪雨災害からの復興を通じ、防災はハード整備だけでなく、市民同士のつながりや長期的な支援が不可欠であることを実感しました。

薩摩町では、少子化に対応した学校再編の工夫や教育環境づくりを拝見し、子どもたちが安心して学べる体制づくりの大切さを再認識しました。

今回の視察を通して、地域の課題は異なっても「人を大切にするまちづくり」という共通の理念を感じ、今後の施策に活かしていきたいと思っています。

氏名:栗原智之

どの地域も、歴史と特徴があり、また、地域資源にも特徴があります。これらの特徴を活かした取り組みを、視察先の地域では展開しており、活性化へとつながっているものと理解しました。本市においても同様に、立地を含め、様々な地域リソースを活用した、本市にあった取り組みができるように進めていく必要があります。

氏名:田中良夫

10 年以上かけて段階的に学校を統合するため、地区ごとに説明会を重ね、理解を得ながら進めた結果、地域の賛同を得るとともに、スクールバスや通学路安全対策を同時に実施することで、通学環境の不安を解消していることについて、市と地域住民との対話には十分な時間をかけていたことが重要だと感じた。本市としても、市長を中心に地域住民との対話の中から、解決策を一緒に考えていく姿勢で臨んでもらいたいと同時に、議会としても支援できる体制づくりに取り組みたいと考えます。

氏名:金子正則

新政会の行政視察を 7 人全員出席の中で 3 日間の日程で行いました。
1 日目都城市 2 日目人吉市→始良市 3 日目さつま町、とてもハードな日程の中で 3 市 1 町の皆さんに歓迎を頂き先進的な取り組みを学びました。
都城市、複合施設「まるまる」図書館を子育て支援センターや商業店舗など 8 つの機能が一つの建物に集結する施設には圧倒されました。
また、市議会の中で一般質問は AI 分析を始めたとの事でした。議会力向上へ向けての取り組みについて学ばせていただきました。
また人吉市では、令和 2 年 7 月の豪雨による被害状況、豪雨への備え、復興状況について学びました。
始良市では、子育て支援拠点施設で「キッズスペース」「一時預かり室」「子育て等相談」の 3 つの機能を備えている「ちるどん」の施設を見学させて大変参考になりました。
さつま町では、学校再編について実際携わった担当の皆様より苦労話も伺いました。本市も再編計画を考えて行く中で、大変参考になりました。
すべてが加須市にとって参考になるテーマでした。
この施策を本市も生かして行きたいと思いました。
改めて、3 市 1 町の皆様に感謝申し上げますとともに
大変充実した行政視察が出来ました。
ありがとうございます。